
小さな騎士

新藤 和音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

小さな騎士

【Nコード】

N6726H

【作者名】

新藤 和音

【あらすじ】

「小さなナイト」と呼んでください。コランです。お題は、コランで20のお題より「無力」「小さなナイト」から連想しました。元 bodiesに戻れず、蘭に寂しい思いをさせる悲しさの中でも、小さな希望や温かい気持ちの流れ出すコナンを表現しました。

蘭を近くで見守ってきたのは、誰でもないオレなんだ。

小さなナイト

「ただいまー」

いつものように、ランドセルを背負ったオレは探偵事務所の階段を上り、ドアを開ける。

おかえりーコナンくん、という言葉を待っていたのに。

「…蘭姉ちゃん…？」

返事がない。

まだ帰ってないのか？ いや、でもデスクを見てもおっちゃんはまだ帰ってない。なのにドアの鍵は開いていたし、

「…蘭っ!？」

背中に嫌な汗が流れた。

頭の中で再生される、過去の灰原の言葉。

『彼女は間違いなく、組織が消去する標的の一人にされるでしょうね』

ランドセルを放り投げてあたりを見渡せば、

「しんいち…」

ソファに身を投げて眠る蘭がいた。

小さなつぶやきは寝言のようで、彼女が自分を求めていると言うことを再認せざるを得なかった。

握り締められているのは片手に通学カバン、もう片方の手には丸められた柔道着。きつと部活に疲れていたのだろう、ぐっすりと眠っている。

「はやく、…かえってきて…」

彼女の言葉に、息が詰まりそうになった。

こんなにも安らかに眠っていたはずなのに。

彼女が眠っている間まで、自分が悲しい思いをさせ、彼女の心を縛

り付けているのか。

申し訳なく思った。それと同時に、どこか、とてもいとおしく思っている自分がいた。

「すぐ解決するからな、オメエのためにも」

綺麗に畳まれていたタオルケットを広げ、蘭の体に優しく被せた。

「それまで待っててくれ、代わりに…」

そう、代わりに、

コナンが見守ってるから、な？

・
・
・
・
・
・
・
・
・

「小さなナイト」

＊コランで20のお題

171 無力

174 小さなナイト

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6726h/>

小さな騎士

2010年12月28日03時08分発行